

## 令和3年度 東京都立国立高等学校 学校運営連絡協議会 実施報告書

### 1 組織

- (1) 東京都立国立高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成  
事務局長：総務部 主幹教諭  
事務局：事務局長 副校長 経営企画室長 教員2名 計5名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務部担当・総務部担当・生徒部担当・3学年主任計4名）、指導教諭（進路指導部担当・保健部担当計2名）計9名
- (4) 協議委員の構成  
一橋大学教授、教育関係者2名、国立市子ども家庭部施策推進担当課長、地域代表、国立第一中学校長、国立第三小学校長、同窓会副会長、PTA会長 計9名

### 2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催日時、出席者、内容、その他  
第1回 令和3年5月21日（木）  
※コロナウイルス感染症拡大のため書面開催  
本校学校運営連絡協議会の趣旨説明、協議委員委嘱、委員紹介、評価委員選出  
令和2年度学校経営報告及び令和3年度学校経営計画、学校の現状と課題を郵送し意見を集約  
第2回 令和3年11月6日（金）  
令和3年度組織目標の進捗状況報告、学校の現状と課題、  
学校評価アンケートの検討・承認について郵送  
第3回 令和4年3月8日（月）  
※コロナウイルス感染症拡大のため書面開催  
学校評価の報告及び学校運営への提言、学校の現状と課題について郵送し意見を集約
- (2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容、その他  
第1回 令和3年11月6日（金）  
今年度の学校評価アンケート、内容の検討について郵送  
第2回 令和4年3月8日（月）中止  
学校評価アンケートの集計結果の分析、考察について郵送  
意見集約

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点について、経年変化を考慮して分析する。
- (2) アンケート調査の実施時期（11月）・対象及び回答数について
  - ・全校生徒 868／956名（91%：前年度79%）
  - ・保護者 673／956名（70%：前年度79%）

- ・教職員 58 / 60名 (97% : 前年度100%)
- ・地域 49名 (前年度73名)

(3) 主な評価項目

学校満足度、学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動（学校行事・部活動）他

(4) 評価結果の概要

① アンケート回収率

全体で約81%だった。昨年度から Web による回収を行ったが、生徒についてはクラスで回収したために上昇、保護者の回収率は対面による保護者会が実施されなかったため、回答率が下がった。地域については、紙媒体での調査と Web による調査を併用した。

② 学校満足度

学習活動・学校行事・部活動とも生徒・保護者の満足度が高く、肯定的な回答としては87%を超えた。地域のアンケートでも肯定的な意見が多かった。

③ 防災教育

生徒は2ポイント低下、保護者は7ポイント、地域でも肯定的な回答は44%であり、全般に評価は下降した。コロナ禍で防災訓練が中止されたことが影響したと考えられる。

④ ホームページ・学校通信充実度

生徒は59%、保護者は76%であり、昨年度と変わらない結果であった。令和3年度はホームページ更新について課題が残ったが、Teams による情報発信回数が増えたため、学校内での通信は現状維持されている。外部向け発信はHPリニューアルも控えている次年度に改善が必要となっている。

⑤ 校内美化

校内環境の改善に向けた修理・改善をおこなっているが、老朽化に伴う満足度の低下は否めない。昨年と比べ改善したが、生徒では43%、保護者も40%の満足にとどまっている。

(5) 評価結果の分析・まとめ

① 新型コロナウイルス感染に伴う対応

2年にわたる新型コロナウイルス感染にかかる休校、行事の中止、特別活動の制限等に伴い、学校に向けられた意見もこれらの対応についてのものが増加した。オンライン授業の配信等についての要望が増えた一方で、学校行事等を一定実施できたことへの高評価も増えた。学校の感染対策については概ね理解が得られている一方で、教室の人数を減らす、リモート授業へ移行する等、学校の施設等、根本的な課題を解決しなければ実現できないことについての要望も増えている。

② 生徒の気質の変化

部活動等に積極的に取り組む生徒が多い中で、保護者からは文部科学省からの部活動ガイドラインに則った範囲に活動を制限してほしい、との声や、教職員から、生徒の自主性・主体性が失われつつある、との不安の声が寄せられている。これらは、良くも悪くも生徒に任せておけばよい、という時代ではなくなったことを表している可能性がある。また、保護者の方から三者面談の実施を求める声も増加しており、卒業後の進路選択に、保護者、教員が今以上にコミットすることが学校として求められていることがわかる。

③ 近隣地域との交流

交通マナー等についての生徒の状況については、評価する意見と課題を指摘する意見との両方が見られた。これについては、引き続き、生徒指導を行うことで改善を目指す必要がある。また、今年度は地域との連携を図った防災訓練や隣接する小中学校との交流事業も、新型コロナウイルス感染拡大により実施できなかった。地域社会に開かれた学校づくりとしては進展のない1年となってしまった。来年度は、感染状況も改善されていれば、それぞれの活動を再開できるよう、行事計画は策定されている。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

##### (1) 学校運営連絡協議会を実施して、得られた成果

- ・コロナ禍で2回の協議会が中止とせざるを得なかった。学校評価アンケートなどは協議委員間で共有することができた。
- ・本校が地域から信頼され、地域に根差した学校であることを再認識できた。
- ・学校の経営方針や教員の活動に関して、保護者や地域が強い関心を示していることを教職員とに有する機会とできた。

##### (2) 学校運営連絡協議会を実施して、明らかになった課題

- ・教育環境、施設環境ともに引き続き改善に向けて取り組んでいく。
- ・保護者を交えた進路指導が求められる時代になっていることを教職員も認識し、本人、家庭、学校の三位一体での進路指導を実践していく必要がある。

#### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

##### (1) 学校運営

- ・コロナ禍で教科「人間と社会」の体験活動や地域と連携した防災訓練が当初計画どおり実施できなかったため、協議会を通じて構築された連絡体制を基に、地域の方と連携して、円滑な実施再開を計画する。
- ・ホームページでは緊急時の対応が困難であるため、メール送信サービスを活用する。
- ・学習活動でのオンライン学習の対応は環境整備も含めて課題が残っているので、改善していきたい。

##### (2) 学習活動

- ・高い授業力を保つための研修・研鑽を「指名制による授業研究」等を活用して実施する。
- ・教科会を活用して、生徒・保護者の思いや願いに応える授業内容・授業進度の充実を図る。
- ・連携機関を活用して最新入学試験問題等の教授力を獲得する。

##### (3) 特別活動

- ・すべての学年において自宅学習の十分な確保と、部活動等特別活動の両立に向けて指導する。
- ・地域の方からも高く評価されている「国高祭」を公開実施できるように準備を進める。

##### (4) 生活指導

- ・自転車を中心とした登下校マナーと校舎周辺の環境整備に関する指導を徹底する。

##### (5) 進路指導

- ・進路室のガイダンス機能の向上に向けて、常時開設とスペースを確保する。
- ・必要な時期に三者面談も含めた相談体制を組織全体で構築する。

##### (6) 健康・安全

- ・問題を抱える生徒に対して支援する生徒支援委員会が定着してきた。生徒一人ひとりを大切に指導を徹底して、早期指導ができる体制を整える。

#### 6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

##### (1) 協議委員人数 9人

##### (2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
	9					